

『発達障害と放課後等デイサービスについて』

Wing-Garden ときわ台

管理者兼児童発達支援管理責任者 市原佳代子

◆ 概要編（動画 1 本目）

【1】

1. 自己紹介・イントロ

放課後等デイサービス「Wing-Garden ときわ台」 管理者兼児童発達支援管理責任者 市原佳代子

保有資格：幼稚園教諭、保育士、児童発達支援管理責任者、放課後支援員

放課後等デイサービス「Wing-Garden ときわ台」令和 4 年 4 月 1 日指定申請を受け開所

【2】

1. 目次

- ・放課後等デイサービスとは？
- ・発達障害とは？
- ・「Wing-Garden ときわ台」の現状
- ・今後の課題
- ・最後に（まとめ）

【3】

1. 放課後等デイサービスとは？

- ・「放課後等デイサービスとは、6～18 歳までの障がいのあるお子さんや発達に特性のあるお子さんが放課後や夏休みなどの長期休暇に利用できる生活能力向上のための必要な訓練や、社会との交流促進などの支援を行う福祉サービスです」

療育とは…「障がいのある子どもに対し、身体的・精神的機能の適正な発達を促し、日常生活及び社会生活を円滑に営めるように行う、それぞれの障がいの特性に応じた福祉的、心理的、教育的及び医療的な援助である」

つまり、療育とは障いを持つ子どもに対する自立に向けたサポートになる。自立ですから将来に向けた見据えていく支援が必要となる。

2. 基本的な役割3つ

- ・子どもの最善の利益の保障
- ・共生社会の実現に向けた後方支援としての役割
- ・保護者支援

3. どんな資格をもった職員が働けるのか？

- ・児童指導員任用資格、保育士、幼稚園教諭、小・中教員免許、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士

4. 国の事業なのか？

- ・厚生労働省管轄、児童福祉法に基づいた事業

5. どんな子どもが放課後等デイサービスに通えるのか？

- ・6～18歳 身体・知的、発達障害児童
- ・受給者証が必要である

6. 定員、利用時間は？

- ・10名（都道府県によって異なる）
- ・平日 学校下校時間～17時30分
- ・学校休業日・土曜日 10時～16時

7. 学童クラブと違うサービスは？

- ・送迎サービスがあり、学校までお迎えに行き自宅まで送る

8. 何故、学童クラブではなくて放課後等デイサービスに通うのか？

個々の障がいや状況に応じて、個別に療育を受けられる為

大人数の中ではなく、個別に療育を受けられる為

普通級（一般的な集団のクラス）、

通級（基本的には通常の学級に在籍しながら一部特別な指導が必要な際に、週に数回程度移動するクラス）、

支援級（一人ひとりがニーズに合った教育する事を目的とした、8人が基準の小さなクラス）

9. 支援の方法は？

児童発達支援管理責任者が保護者に聞き取りを行い、本人や保護者の意見を取り入れ個別支援計画書を作成。

個別支援計画書に基づいて支援が行われる。6か月に一度、モニタリングをして見直しをする。

【4】

1. 発達障害とは？

生まれつきみられる脳の働き方の違いにより、幼児のうちから行動や情緒に特徴がある状態。そのため、養育者が育児の悩みを抱えたり、子どもが生きづらさを感じたりすることもある。

発達障害があっても、本人や家族、周囲の人が特性に応じた日常生活や学校・職場での過ごし方を工夫する事で、持っている力を活かしやすくなったり、日常生活の困難を軽減させたりすることが出来る。

生まれつきの特性である。生まれつき脳の働き方に違いがあるという点が共通している。

同じ障害名でも、特性の現れ方が違ったり、いくつかの発達障害を併せ持ったりする事もある。

2. もしかして発達障害？（症状の例）

あくまでも一例であり、当てはまったからと言って必ずしも発達障害というわけではない。専門家に相談が必要である

例

- ・食べ物好き嫌いが激しい
- ・昼寝をしない夜眠らない
- ・よく持ち物をなくす
- ・食事や着替えの最中にぼーとしていて終わらない
- ・こだわりが強い
- ・何度注意されても同じことを繰り返す
- ・走らない様に注意されてもすぐに走り回る
- ・ものの取り間違えが多い
- ・話かけても目を合わせない
- ・育てにくさを感じる
- ・気になる癖や行動がある
- ・音がする方に注意がそれて集中できない
- ・その場に合った声の大きさと話す事が難しい
- ・適切な対人距離がわからない（人に慣れ慣れしく話し掛けたり、近すぎたりする）
- ・興味のない事は聞かない。一方的に話したいことを話す
- ・集団の決まり事の理解ができない

など

3. 主な発達障害

1. ASD（自閉スペクトラム症）

コミュニケーションの場面で、言葉や視線、表情、身振りなどを用いて相互的にやりとりをしたり、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを読み取ったりする事が苦手。また、特定のことに強い関心を持っていたり、こだわりが強かったりする事がある。また感覚の過敏さを持ち合わせている場合もある。

- 特徴：
- ・具体的な視覚情報を好む
 - ・あいまいな表現が苦手
 - ・特定のものと物の記憶力が高い
 - ・特定の感覚がするどい
 - ・特定の感覚がにぶい（視覚、聴覚、触覚など）
 - ・集団が苦手
 - ・事前に計画を伝える事で安心されるケースが多い
 - ・二次障害で不登校や行き渋りになるケースがある

☆特性とうまく付き合う事でこだわりは長所にもなり得る♪

2. ADHD（注意欠如・多動症）

発達年齢に比べて、落ち着きがない、待てない（多動性）、思いついたら行動してしまう（衝動性）、注意が持続しにくい、作業にミスが多い（不注意）といった特性がある。

多動性—衝動性と不注意の両方が認められる場合も、いずれか一方が認められる場合もある。

- 特徴：
- ・そそっかしい時がある（不注意）
 - ・じっとしてられないことがある（多動性）
 - ・落ち着きがない
 - ・うっかりミスが多い
 - ・活動の切り替えが苦手
 - ・持ち物の管理が苦手
 - ・忘れ物が多い
 - ・机の周りに落とし物があり、困り感を抱えるケースがある

☆叱られることが多く、自信を無くすことがあるのでできていることを沢山褒めてあげる！

3. LD（学習障害）

知的な遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算・推論する」力に困りごとがある。

特定の学習のみに困難が認められる状態である。

- 特徴：
- ・掛け算は理解できるが、数字の計算が出来ない
 - ・算数は理解しているが、国語の読み書きが困難など
 - ・学習がはじまる小学校から気になるケースが増え始める事が多い

☆子供の困難さを正確に把握し、決して子どもの怠慢さのせいにならず、適切な支援の方法について情報を共有する事が大事！

☆発達障害がある場合、早めに障害に気づき、適切な療育につなげていく事で、社会に適応する能力を身に付け、様々な能力を伸ばしていく事が出来ます。

【5】

今後の課題と理念（まとめ）

1. 課題

- ・放課後等デイサービスは学校との連携が取れていない
- ・専門的な支援が求められる為、スタッフのスキルの向上を図る
- ・保育所等訪問支援事業を取り入れ、学校との連携を図り、学校、家庭と三位一体となった療育を目指す

2. 当事業所の理念として、

「すべての子どもを未来に向かって羽ばたかせたい」

目標は、

愛情を持ち、一人一人に寄り添った療育を提供する

子どもの無限の可能性を伸ばす

子どもと保護者の居場所を作る

最終的なゴールとしては、本人の生きづらさを軽減し、困りごとを解決していく、将来社会に出て就労が出来るようになる事を目標に、日々の療育を行っている。

障がい＝個性

放課後等デイサービス＝居場所

3, 最後に

日々の支援を通し、子どもの発達過程や、障害種別、障害の特性を理解している職員による発達支援を通して、子どもが他者との信頼関係の形成を経験出来ることが必要であり、この経験を起点として友達と過ごす事の心地良さや楽しさを味わう事で、人と関わることへの関心が育ち、コミュニケーションを取る事の楽しさを感じる事が出来るように支援している。

また友達と関わる事により、葛藤を調整する力や、主張する力、折り合いをつける力が育つことを期待して支援を行っている。

基本的活動には、子どもの自己選択や自己決定を促し、それを支援するプロセスを組み込むことが求められている。

また、日常的な子どもとの関わりを通して、保護者との信頼関係を構築し、保護者が子どもの発達に関して気兼ねなく相談できる場になるように努める。

不登校の子に対して、放課後等デイサービスが一つの居場所になる事を目標とし、継続的に通えるように努めている。

参考・引用

厚生労働省 放課後等デイサービスガイドライン

厚生労働省 ホームページ

◆ 事例編（動画2本目）

【6】

放課後等デイサービスの一日の流れ、プログラム

- 1, 一日の流れ
- 2, プログラム

◎プログラムを通して、様々なプログラムを行い、友達との関わりやコミュニケーションを学んでいる。

【支援の想い、ねらい】

- ・苦手を克服するより好きなものを広げていく。
- ・困っているのは本人。その子の特異性や困り事を理解してあげることからスタートしている。
- ・好きものを見つけられる様に、また興味の持った物に挑戦出来るように支援を行っている。
- ・好きな物を見つける、落ち着くものを見つける、それが社会関係に広がる事にもつながる。
- ・自分のストレンクス（強み）を伸ばし、困っている所をサポート出来る様な支援を行っている。
- ・自分から行動する力を付け、たとえ失敗してもそれを認め、失敗を経験して失敗をしても大丈夫なんだと乗り越える力を付ける。
- ・様々な経験から成功体験を増やして自信を付ける。＝自己肯定感を高めていく。
- ・職員との信頼関係を築き、安心出来る環境を作っている。
- ・職員が得意な事に目を向ける事で、子どもがさらに成長する事が出来る。
- ・職員間、事業所間で情報を共有し、支援の方針を統一して対応する事が大切である。
- ・記録を取る。行動の分析をし支援を考える。

【7】

当事業所の現状

1、概要

現在通所している子ども：小学1年生～中学2年生 男女

症状：ASD、ADHD、LD、DCD（発達性協調運動症）、肢体不自由、軽度知的障害、パニック障害、不登校

2、事例

1. A君（小学校低学年 ADHD LD 疑い）

じっとしていられない、訓練室を走ったり、物を投げる、玩具や送迎車の備品を壊してしまう、こだわりが強い、同じ物への執着心が強い、手に何かを持っていないと落ち着かない、読み書きが苦手であり自分から学習に取り組もうとしない、大きな声を出したり衝動的に行動をしたりする

《支援内容》

- ・送迎車の中では、色々な所を触らない様に手にお気に入りの人形を持つ。
- ・「走らない」「投げない」などの事業所のルールを書いて壁に掲示し、毎日のはじまりの会でルールを視覚から確認する。
- ・声のもののさしの画像を掲示し、状況に応じた声の大きさを学べる様にする

2. B君（小学校中学年 ASD 疑い）

初めての場所・初めての人・初めての事に取り組むのが苦手、集団が苦手、訓練室にスムーズに入れな
い事がある、感情のコントロールが難しく激しく落ち込んだり気持ちが昂ったりする、自己肯定感が低
い、周りの状況を良く見ていて気になってしまい学習に集中するのが難しい、気持ちの切り替えが難し
い

《支援内容》

- ・得意な事を大いに褒め、自信に繋がる事を一つ一つ増やしていき、自己肯定感を高める。
- ・初めての事、人、物、プログラムに対し、予め事前に情報を本人に伝え、安心出来る様にする。
- ・苦手なプログラムにも挑戦出来るように、興味が出てくるような声掛けや環境の設定にも配慮する
- ・様々な経験を増やし、成功体験を増やしていく

3. C君（小学校低学年 ASD）

こだわりが強い、友達とコミュニケーションを取るのが苦手、同じ言葉を何度も言ってしまう、忘れ物が多い、所持品の管理が苦手、時間の見通しがないと不安になる、予定の変更の適応が難しい、活動の場面の切り替えが難しい、物事を納得するまでに時間がかかる

《支援内容》

- ・こだわりが強い＝不安感が強い 安心できる環境作りを行う
- ・一日の予定をホワイトボードに時間と活動内容を掲示し、見通しを持てる様にする
- ・視覚からの支援がとても大切である
- ・目で見てわかるように、絵カードや手順カードを作る
- ・予定の変更についてなるべく早い段階で理由もつけて納得できる説明をしていく
- ・活動の切り替えは、音楽を流して場面の切り替えを行う

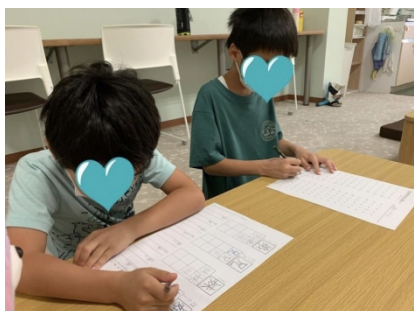
3. 保護者からの要望

- ・友達とコミュニケーションが取れる様になって欲しい
- ・自分の気持ちを相手に伝えられる様になって欲しい
- ・社会でのルールやマナーを身に付け、社会性を付けて欲しい
- ・学校でも家庭でもないまたもう一つの居場所が欲しい
- ・学校以外の世界が欲しい、学校以外の友達が欲しい
- ・色々なプログラムに参加して経験値を増やして欲しい
- ・困った時に大人にSOSが出せる様になって欲しい
- ・1人で公園に行けない、友達とはトラブルになってしまうので、放課後公園に行かせられない
- ・学童クラブは人数が多くて少人数個別で見て欲しい
- ・習い事は障がいの特性があるので集団の習い事を習うのは難しい（野球やサッカーなど）
- ・学校に気の合う友達がいらない、学校とは違う場所での友達やコミュニティーが欲しい
- ・不登校になりがちで学校を休みがちであるので、定期的に通える場所が欲しい
- ・長期休みなど長い休みで生活のリズムを壊したくない
- ・体幹が弱い、運動面を特に見てもらいたい
- ・学習支援 学習の習慣を付けて欲しい
- ・将来が心配…就労して自立していけるような力を付けて欲しい
- ・就学前は、児童発達支援などの療育の場が手厚くあったが、就学するとどこも見えてくれる場所がない
- ・一気にサポートが無くなる 誰に相談をしたらよいかわからない

【当事業所のプログラム】

学習だけでなく、コミュニケーション、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を通して、様々な刺激を受けながら生活を楽しんでいきます。
社会生活や対人関係をスムーズにするためのトレーニングを行います。

○学習支援



○社会生活訓練



○日常生活訓練



○運動体幹トレーニング



○体験型プログラム



【集団プログラム】

クッキング



課外活動



様々なプログラム

